

1. 今年度の iPad の活用目標と活用状況

今年度の活用目標

- ・ iPad の基本的な操作（タップ・ドラッグ・フリック・ピンチアウト・ピンチイン）に慣れる。
- ・ iPad の機能を知り、目的に合った操作、活用を自主的に行う。

活用状況

文字入力の練習に、YouTube の音楽 PV の検索を休憩時間に行った。学習では、指と自作教材のスタイラスペンで文字入力を行った。Pages を使用し「運動会の感想文を書こう」や国語の教科書の書き写しを行った。

修学旅行の日程などを Keynote, iThoughtsHD で作りプレゼンテーションした。また、iBooks を使用して、「アイスクリームの作り方 (e-pub 形式)」「折り紙ユニットの作り方 (PDF 形式)」を登録した。e-pub 形式では辞書機能を付けることができるため、生徒自身からわからない言葉の意味を調べることができた。

2. 現在活用しているアプリケーション

タッチカード

ホームの画像が鮮明で大変見やすいものとなっているため、自主的に操作することができた。特にトイレの画像と音は評判で、自身の生活と密接な内容だけに、流れゆく大便を目で追うなどの行動が見られた。

太鼓の達人

ゲームコーナーでおなじみのゲームアプリである。画像と音の両方で判断しタイミングを取りタップするのであるが、合わせようとする姿が見られた。結果が点数で表示されるので、自主的に前回と比較することができる。

お絵かき広場

お絵かき帳として使用することが多かったが、他学年の自閉症の生徒に対して、緊急的なコミュニケーションボードとして使用することがあった。色つきの絵を描くことができ、また、当然文字も書くことができるため、手元に AAC がいないときに代用できた。

Labyrinth 2

iPad 本体を傾け、ボールを穴へ入れるゲームである。ボールの動きが実際の動きと同じであるため、物の動きを実感できるアプリである。目と体の協応に利用できた。

漢字力診断

漢字は宿題としてプリントを持ち帰り家庭で学習している生徒も多い。このアプリは「読み」「書き」が自主的に学習できるようになっている。指先で記入する場合に認識されず何度も書き直すこともあったが、慣れていく内に指圧が安定してきた。また、クイズに答えると、総合漢字力としてランキングに名前が入力できるようになっている。自分の名前を確認し、意欲的に取り組んでいる。